

[平成21年度設置]

計画の区分：学部等の設置

注1

四国大学 看護学部

注2

設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 四国大学
平成21年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部申請事務室

職名・氏名 室長 ヨシダ 吉田 カズヒコ 一彦

電話番号 088-665-9939

（夜間） 090-4979-1982

F A X 088-665-8037

e-mail shinsei-jimushitsu@shikoku-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可申請時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

目 次

四国大学看護学部設置に係る設置計画履行状況報告書

1	調査対象大学等の概要等	1
(1)	設置者	1
(2)	大学名	1
(3)	大学の位置	1
(4)	管理運営組織	1
(5)	調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況	2
2	授業科目の概要	4
(1)	授業科目表	4
(2)	授業科目数	8
(3)	未開講科目	9
(4)	廃止科目	9
(5)	授業科目を未開講又は廃止したことに係る 「大学の所見」及び「学生への周知方法」	9
(6)	「認可時の計画の授業科目数の計」に対する 「未開講科目と廃止科目の計」の割合	9
3	施設・設備の整備状況, 経費	10
4	既設大学等の状況	11
5	教員組織の状況	12
(1)	担当教員表	12
(2)	専任教員数	26
6	留意事項に対する履行状況等	28
7	その他全般的事項	30
(1)	設置計画変更事項等	30
(2)	教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)	31
(3)	自己点検・評価等に関する事項	32
(4)	情報提供に関する事項	33
別 紙	設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見	

大学等設置に係る設置計画履行状況報告書

※

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 四 国 大 学

(2) 大学名

四 国 大 学

(3) 大学の位置

〒771-1192
徳島県徳島市応神町古川字戎子野123番地1

(4) 管理運営組織

職 名	認 可 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(サトウ イチロウ) 佐 藤 一 郎 (平成14年4月1日)		
学 長	(フクオカ ノボル) 福 岡 登 (平成13年4月1日)		
学 部 長	(エサキ フサコ) 江 崎 フサ子 (平成21年4月1日)		
学 科 長 等	(テラオ トシコ) 寺 尾 紀 子 (平成21年4月1日)		

(注) 『(3) 大学の位置』は、申請学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

『(4) 管理運営組織』の「変更状況」欄は、変更があった場合のみ記入し、併せて「備考」欄に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)

平成21年度に報告する内容 → (21)

※ 「留意事項報告書」の場合は、タイトルを修正してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) 1 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 2 様式は, 平成18年度開設の場合(平成21年度までの4年間)ですが, 開設年度に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)
 3 定員を変更した場合は, 備考欄に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	認可時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	4年	80人	3年次 5人	330人	

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平均入学定員超過率	備考
A	入学定員	()人 80	()人	()人	()人	1.06倍	
	志願者数	() 165	()	()	()		
	受験者数	() 160	()	()	()		
	合格者数	() 129	()	()	()		
B	入学者数	() 85	()	()	()		
	入学定員超過率 B/A	() 1.06	()	()	()		

- (注) 1 ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を備考欄に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 2 「平均入学定員超過率」欄には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
1年次		[] 85	[]	[]	[]	
2年次		/	[]	[]	[]	
3年次		/	/	[]	[]	
4年次		/	/	/	[]	
計		[] 85	[]	[]	[]	

- (注) 1 []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成21年度	計 0 [0]	計 85 [0]	[0 %] 0 %
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 85人	
平成22年度	計 []	計 []	[%] %
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 []	計 []	[%] %
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度入学者 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度入学者 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度入学者 人	
	(主な退学理由)		
平成24年度	計 []	計 []	[%] %
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度入学者 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度入学者 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度入学者 人	
	うち平成24年度入学者 人	うち平成24年度入学者 人	
(主な退学理由)			

(注)1 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

2 「入学者数に対する退学者数等の割合」欄は、各対象年度における退学者等の数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

3 「主な理由」欄は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

- ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
- ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(例)今年度完成年度を迎える大学

一般的には、平成21年度欄については、入学後1か月程度しか経過していないため、退学者数は「0」や少数であることが想定されます。また、平成18, 19年度は原則として昨年度の報告書と同様の記載となります。

2 授業科目の概要

〈看護学部 看護学科〉

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通	人間と言語	教養英語 I	1 前	2								
		教養英語 II	1 後	2								
		教養英語 III	2 前	2								
		教養英語 IV	2 後	2								
		教養国語	1 前	2								
		フランス語 I	2・3 前	2								
		フランス語 II	2・3 後	2								
		ドイツ語 I	2・3 前	2								
		ドイツ語 II	2・3 後	2								
		中国語 I	2・3 前	2								
		中国語 II	2・3 後	2								
教養科目	人間と環境(社会・文化)	人間論(含大学論)	1 後	2								
		言語と文化	1・2 後	2								
		地域と文化	1・2 前	2								
		人権思想と歴史	1・2 前	2								
		現代社会と人間	1 後	2								
		西洋の歴史と思想	1・2・3 前後	2								カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		日本の歴史と思想(含東洋)	1・2・3 後	2								
		近代日本の教育	1・2 前	2								
		世界の中の日本経済	1・2 前後	2								カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		西洋の政治思想史	1・2 後	2								
		中国の法思想	1・2 前後	2								カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		日本国憲法	1 後	2								
		考古学	1 前	2								
		環境と人間	1 後	2								
徳島の研究	1・2・3 後	2										
生命と倫理	1・2 前	2										

〈看護学部 看護学科〉

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通	人間と環境 (社会・文化)	四国いやしの道	1・2 後		2							
		国際関係・国際理解	1・2 前		2							
		ヨーロッパ研究	1・2 後		2							
		アメリカ研究	1・2 後		2							
		キャリア開発	3 前		2							
		社会参加の人間学	3 前		2							
		NPO・ボランティア活動論	1・2 後		2							
		災害と防災の知識	1・2 後		2							
教養	人間と健康	社会集団と人間心理	1・2・3 後	2								
		カウンセリング入門	1 後		2							
		自然科学の進歩	1・2 前 後		2							カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		水の科学	1・2 後		2							
		水と生命と健康	1・2 後		2		1					
科目	人間と情報	情報処理	1 後	2								
		現代社会と知的財産法	1 前		2							
		総合ゼミ	1 通	4			3		1			
基礎科目	基礎科目	生物学基礎	1 前		2		1					
		化学基礎	1 前		2		1					
		物理学基礎	未開講 →後		2							担当予定教員(兼任)の急な辞退のため未開講(21)
		数学基礎	1 後		2							
		統計学基礎	1 後		2							
専門基礎科目	人間と健康	身体の構造と機能Ⅰ (呼吸・循環・消化器系)	1 前	2			1					
		身体の構造と機能Ⅱ (脳神経・骨関節・感覚器系)	1 後	2			1					
		栄養学	1 後	2								
		生化学	1 後	1			1					
		薬理学	1 後	1			1					

〈看護学部 看護学科〉

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門	人間と健康	微生物学	1 後	1			1					
		人間発達学	1 前	1								
		健康科学概論	1 前	1			4	1				
		健康教育論	2 後	2			1					
		女性学	1 後		1							
		女性と胎児の薬理学	4 前			1	1					
		人間関係論	1 後		1							
		臨床心理学	1 後		1		1					
基 礎 科 目	環境と健康	疾病論(総論)	1 後	1								
		疾病論Ⅰ (呼吸・循環・造血管系)	2 前	1								
		疾病論Ⅱ (消化・腎・泌尿器系)	2 前	1								
		疾病論Ⅲ (内分泌・代謝・生殖器系)	2 前	1								
		疾病論Ⅳ (脳・神経・運動器系)	2 前	1								
		疾病論Ⅴ (精神・感覚器系)	2 前	1			1					
		公衆衛生学(産業保健含む。)	1 後	1			1					
		保健福祉行政論	3 後	2								
		疫学・保健統計学	3 通	3			1					
		学校保健Ⅰ(総論)	2 後	1						1		
学校保健Ⅱ(方法論)	3 後	1						1				
専 門 科 目	看護の基本	看護学概論	1 前	1			1					
		看護理論演習	1 後	1			8	6	3			
		ヘルスアセスメント	1 後	1			2	2		1	5	
		生活行動援助論	1 通	1				1				
		生活行動援助技術	1 通	1			2	2		1	5	
		治療過程に伴う援助論	2 前	1			1					
		治療過程に伴う援助技術	2 前	1			2	2		1	5	
		看護過程論	2 後	1			2	2		1		

〈看護学部 看護学科〉

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護の基本	フィールド体験実習	1 前	1			8	6	3					
	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境)	1 後	1			2	2		7	9			
	基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	2 後	2			2	2		7	9			
専門科目	生涯発達看護論	成人・老年看護学概論	2 前	1			2						
		精神看護学概論	2 前	1									
		在宅看護概論	2 前	1			1						
		成人・老年保健論	2 前	1			2						
		精神保健論	2 前	1			1						
		成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象)	2 前	1			3		2	1			
	人間と環境の相互作用の保持・強化	家族発達看護論	母性・小児看護学概論	2 前	1			1	1				
			母性保健論	2 前	1				1				
			小児保健論	2 前	1				1				
			母性看護学方法論	2 後	2				1	1		1	
			小児看護学方法論	2 後	2				1			2	
			母性看護学実習	3 前	2			1	1	1	2	1	
			小児看護学実習	3 前	2				1			2	
			助産学概論	3 後		1		1					
			助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎)	3 後			2		1	1	2	1	
助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開)			4 前			2		1	1	2	1		
地域看護学	地域看護学	助産管理	4 前		1			1					
		周産期医学	4 前			1							
		プライマリーケア実習	4 前			1	1	1	1	2	1		
		助産学実習	4 前			6	1	1	1	2	1		
		地域看護学概論	3 前	1			1						
地域看護学方法論Ⅰ (地域看護基本技術)	3 前	1				1			1				
地域看護学方法論Ⅱ (地域看護活動論)	3 後	1				1			1				
地域看護学方法論Ⅲ (産業看護活動論・健康危機看護管理論)	3 後	1				1	1		1				
地域看護学方法論Ⅳ (地域看護基本技術演習)	4 前	1				1	1		1				
地域看護学実習	4 前	3				1	1		1				

〈看護学部 看護学科〉

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	人間と環境の相互作用の修正 慢性期・リハビリテーション看護論	成人・老年看護方法論Ⅰ (慢性期)	2 後	1			1		1	1		
		成人・老年看護方法論Ⅱ (リハビリテーション)	2 後	1			1		1	1		
		在宅看護方法論	3 後	1			1			1	1	
		精神看護方法論Ⅰ (精神障害と看護の特徴)	2 後	1				1		1		
		精神看護方法論Ⅱ (看護の実際)	2 後	1				1		1		
		成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期・リハビリテーション)	3 前	4			1		1	1	2	
		成人・老年看護学実習Ⅳ (施設)	4 前	1			1			1		
		精神看護学実習	3 前	2				1		1	1	
		在宅看護論実習	4 前	1			1			1	1	
	人間と環境の相互作用の回復・保護 急性期・ターミナルケア論	成人・老年看護方法論Ⅲ (救命・救急)	2 後	1					2	1	3	
		成人・老年看護方法論Ⅳ (周手術期)	2 後	1					2	1	3	
		成人・老年看護方法論Ⅴ (ターミナルケア)	2 後	1			1					
		成人・老年看護学実習Ⅲ (急性期)	3 前	2			1		1		3	
	看護学総合	看護倫理	3 後	1			1					
		看護管理論	3 後	1			1					
		災害・救急看護論	3 後	1				1	1		2	
		看護史・制度論	2 前		1		1					
		家族看護論	3 後		1		1					
看護教育論		3 後		1		1						
国際看護論		3 後		1					1			
生活習慣看護論		3 後	1			1						
看護研究方法論		3 後	1			1						
看護研究	4 通	2			11	6	4					
看護学総合	課題探求ゼミナールⅠ	2 通	1			11	6	4				
	課題探求ゼミナールⅡ	3 通	1			11	6	4				
	総合実習	4 後	2			8	6	3	7			

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	選択科目数1減は担当予定教員(兼任)の急な辞退のため「物理学基礎」(共通教養科目)が未開講となったことによる。
82	48	6	136	82 [0]	47 [△1]	6 [0]	135 [△1]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	物理学基礎	2	1	一般	選択	担当予定教員(兼任)の急な辞退のため未開講
2						
3						

(4) 廃止科目

廃止科目はありません。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

担当予定教員(兼任)の一身上の都合による急な辞退のため、共通教養科目「物理学基礎」(選択科目)が未開講となった。
本年度の希望者については、「学修支援センター」の課外講座「物理学基礎」で対応することを、年度当初のオリエンテーションで学生に説明した。
平成22年度は、担当教員を配置し、「物理学基礎」を開講することとする。学生のニーズや希望にきめ細かく対応し、カリキュラム編成の方針・理念を損なわないように努めたい。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.01$$

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は、設置認可申請書の様式第2号(その2)に準じて作成してください。
2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消しした部分については、黒字で記載してください。
3 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の提出日等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
4 「(2) 授業科目数」は、未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に差し引き数を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
5 「(3) 未開講科目」は、配当年次に達しているに関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
6 「(4) 廃止科目」は、認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
7 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」」欄には、授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
8 「(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	四国大学短期大学部と共用 運動場用地のうち日ノ上校地 の一部に次の借用地を含む。 借用面積 11,031㎡ 貸主 四国開発(株) 期間 平成16年1月 1日から 平成41年5月31日まで 日ノ上校地 徒歩7分、0.5km 購入及び登記による変更 (21)			
	校舎敷地	0㎡	87,018 ㎡	0㎡	87,018 ㎡				
	運動場用地	0㎡	26,448 -26,410 ㎡	0㎡	26,448 -26,410 ㎡				
	小 計	0㎡	113,466 -113,429 ㎡	0㎡	113,466 -113,429 ㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	0㎡	113,466 -113,429 ㎡	0㎡	113,466 -113,429 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	四国大学短期大学部と共用 登記による変更(21)			
		23,420 -23,423 ㎡ (-23,423 ㎡)	32,707 -32,781 ㎡ (-32,781 ㎡)	8,966 -8,967 ㎡ (-8,967 ㎡)	65,093 -65,171 ㎡ (-65,171 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室 70 室	演 習 室 62 室	実験実習室 182 室	情報処理学習施設 19 室 (補助職員 4 人)	語学学習施設 3 室 (補助職員 1 人)	大学全体		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 看護学部 看護学科			室 数 30 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体で共用分 図書：377,331 (60,234) 学術雑誌：6,102 [620] 電子ジャーナル：3,800 [3,800] 視聴覚資料：16,624 [2,345] 機械・器具：27,067 標本：116	
		看護学部	3,800 [170] (2,250 [70])	63 [13] (41 [11])	1,303 [740] (740 [740])	140 (68)	2,638 (1,830)		186 (29)
	計	3,800 [170] (2,250 [70])	63 [13] (41 [11])	1,303 [740] (740 [740])	140 (68)	2,638 (1,830)	186 (29)		
(6) 図 書 館		面 積 4,866㎡		閲 覧 座 席 数 454席	収 納 可 能 冊 数 約 450,000冊				
(7) 体 育 館		面 積 2,291㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 プール施設 65㎡ 弓道場 379㎡			研修館 1,866㎡ 日ノ上運動場管理棟 623㎡		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大短で共用	
		教員1人当り研究費等	440千円	440千円	図書購入費	12,000千円	9,681千円		6,876千円
	共同研究費等	27,000千円	27,000千円	設備購入費	135,609千円	37,400千円	6,587千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,562千円	1,282千円	1,282千円	1,282千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用収入、手数料収入などを充てる。							

- (注) 1 認可時の計画を設置認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
2 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
3 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。
4 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消しした部分については、黒字で記載してください。
5 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	四 国 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入 学 員 定 員	編入学員 定 員	収 容 員 定 員	学位又は 称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	3 年次 人	倍		倍			
文学部				512		1.26	昭和47年度		
日本文学科	4	45	2	184	学士(日本文学)	1.19	昭和47年度		
書道文化学科	4	40	2	164	学士(書道文化学)	0.48	平成13年度		平成24年度卒業生より学位を学士(国際文化学)に変更予定
国際文化学科	4	40	2	164	学士(英語文化学)	0.65	昭和47年度		
経営情報学部				724		0.86	平成4年度		
経営情報学科	4	85	6	352	学士(経営情報学)	1.00	平成4年度	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123番地1	平成22年度卒業生より学位を学士(情報ビジネス学)に変更予定
情報ビジネス学科	4	90	6	372	学士(情報学)	0.73	平成13年度		
生活科学部				1,092		1.01	昭和41年度		看護保健学科を除いた2学科1課程で定員超過率を算出
生活科学科	4	30	2	124	学士(生活科学)	0.66	昭和41年度		
看護保健学科	4	65	2	264	学士(看護保健学)	—	平成13年度		平成21年度から募集停止
管理栄養士養成課程	4	70	5	290	学士(保育栄養学)	1.09	昭和43年度		
児童学科	4	100	7	414	学士(児童学)	1.07	昭和43年度		
看護学部				330		1.06	平成21年度		
看護学科	4	80	5	330	学士(看護学)	1.06	平成21年度		
大学の名称	四 国 大 学 短 期 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入 学 員 定 員	編入学員 定 員	収 容 員 定 員	学位又は 称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
ビジネス・コミュニケーション科	2	70	—	140	短期大学士 (ビジネス・コミュニケーション)	0.78	平成13年度		
生活科学科				230		0.65	昭和36年度		
生活デザイン専攻	2	25	—	50	短期大学士 (生活デザイン)	—	昭和44年度	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123番地1	平成21年度から募集停止
食物栄養専攻	2	40	—	80	短期大学士 (食物栄養)	0.71	昭和36年度		
介護福祉専攻	2	50	—	100	短期大学士 (生活福祉)	0.60	平成元年度		平成22年度卒業生より学位を短期大学士(介護福祉)に変更予定
幼児教育保育科	2	110	—	220	短期大学士 (幼児教育保育)	0.60	昭和39年度		
音楽科	2	25	—	50	短期大学士 (音楽)	0.50	昭和43年度		

(注) 1 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。

(大学院及び短期大学の専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

2 認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。

3 「定員超過率」欄には、各修業年限に相当する期間(学年進行中の場合は、設置後経過した年数分)における入学定員超過率の平均を記入してください。

入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

なお、学生募集停止中の学部等については、「—」を記入するとともに、「備考」欄に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

〈看護学部 看護学科〉

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名	就任予定 年 月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢)	就任予定 年 月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	江崎 フサ子	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護学方法論Ⅴ (ターミナルケア) ※ 成人・老年看護学実習Ⅲ (急性期) 看護史・制度論 看護教育論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	峯岸 由紀子	平成22年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助論 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	稲田 久美子	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護学概論 看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 看護倫理 看護管理論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年	担当授業科目名	
専	教授	坪井 敬子	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学概論 ※ 成人・老年保健論 ※ 成人・老年看護学実習 I (看護の対象) 成人・老年看護学方法論 I (慢性期) 成人・老年看護学方法論 II (リハビリテーション) 成人・老年看護学実習 II (慢性期・リハビリテーション) 生活習慣看護論 看護研究 課題探求ゼミナール I 課題探求ゼミナール II 総合実習						
専	教授	中野 静子	平成22年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学概論 ※ 成人・老年保健論 ※ 成人・老年看護学実習 I (看護の対象) 成人・老年看護学実習 IV (施設) 看護研究 課題探求ゼミナール I 課題探求ゼミナール II 総合実習						
専	教授	寺尾 紀子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性・小児看護学概論 ※ 母性看護学実習 助産学概論 プライマリーケア実習 助産学実習 家族看護論 ※ 看護研究 課題探求ゼミナール I 課題探求ゼミナール II 総合実習						
専	教授	富田 真佐子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 在宅看護概論 在宅看護方法論 在宅看護論実習 看護研究方法論 看護研究 課題探求ゼミナール I 課題探求ゼミナール II 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名	就任予定 年 月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年 月	担当授業科目名	
専	教授	忠津 佐和代	平成21年4月	健康教育論 看護理論演習 フィールド体験実習 地域看護学概論 地域看護方法論Ⅲ (産業看護活動論・健康 危機看護管理論) 地域看護方法論Ⅳ (地域看護基本技術演習) 地域看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	鈴木 泰夫	平成21年4月	総合ゼミ 健康科学概論 ※ 公衆衛生学(産業保健含む。) 疫学・保健統計学						
専	教授	森田 恭二	平成21年4月	総合ゼミ 生物学基礎 化学基礎 生化学 薬理学 女性と胎児の薬理学 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	教授	山本 硬治	平成21年4月	水と生命と健康 総合ゼミ 身体の構造と機能Ⅰ (呼吸・循環・消化器系) 身体の構造と機能Ⅱ (脳神経・骨関節・感覚器系) 微生物学 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	教授	森内 幹	平成21年4月	臨床心理学 ※						
専	教授	磯谷 俊明	平成22年4月	疾病論Ⅴ(精神・感覚器系) ※ 精神保健論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	准教授	檀原 いづみ	平成21年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名	就任予定 年 月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年 月	担当授業科目名	
専	准教授	新山 悦子	平成21年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助論 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	小川 佳代	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護理論演習 フィールド体験実習 母性・小児看護学概論 ※ 小児保健論 小児看護方法論 小児看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	高橋 順子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性保健論 母性看護方法論 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎) 助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開) 助産管理 プライマリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	橋本 茂	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 精神看護方法論Ⅰ (精神障害と看護の特徴) 精神看護方法論Ⅱ (看護の実際) 精神看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	就任予定年 月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年 月	担当授業科目名	
専	准教授	武田 道子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 地域看護方法論Ⅰ (地域看護基本技術) 地域看護方法論Ⅱ (地域看護活動論) 地域看護方法論Ⅲ (産業看護活動論・健康 危機看護管理論) 地域看護方法論Ⅳ (地域看護基本技術演習) 地域看護学実習 災害・救急看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	講師	石井 俊行	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護方法論Ⅲ (救命・救急) 成人・老年看護方法論Ⅳ (周手術期) 成人・老年看護学実習Ⅲ (急性期) 災害・救急看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	講師	松尾 恭子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護方法論Ⅰ (慢性期) 成人・老年看護方法論Ⅱ (リハビリテーション) 成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期・リハビリテーション) 成人・老年看護方法論Ⅲ (救命・救急) 成人・老年看護方法論Ⅳ (周手術期) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	講師	平野 文子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性看護方法論 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎) 助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開) プライマリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名	就任予定 年 月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年 月	担当授業科目名	
専	講師	棟方 百熊	平成21年4月	総合ゼミ 学校保健Ⅰ（総論） 学校保健Ⅱ（方法論） 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	助教	杉野 美礼	平成21年10月	ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ（看護過程） 成人・老年看護学実習Ⅱ （慢性期・リハビリテーション） 国際看護論 ※ 総合実習						
専	助教	澤野 りき江	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 成人・老年看護学実習Ⅰ （看護の対象） 成人・老年看護方法論Ⅰ （慢性期） 成人・老年看護方法論Ⅱ （リハビリテーション） 成人・老年看護学実習Ⅳ （施設） 成人・老年看護方法論Ⅲ （救命・救急） 成人・老年看護方法論Ⅳ （周手術期） 総合実習						
専	助教	齋藤 啓子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ （助産過程の基礎） 助産診断・技術学Ⅱ （助産過程の展開） プライマリーケア実習 助産学実習 総合実習						
専	助教	牛越 幸子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ （助産過程の基礎） 助産診断・技術学Ⅱ （助産過程の展開） プライマリーケア実習 助産学実習 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名	就 任 予 定 年 月	担 当 授 業 科 目 名	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名 (年 齢)	就 任 予 定 年 月	担 当 授 業 科 目 名	
専	助教	藤代 知美	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 精神看護方法論Ⅰ (精神障害と看護の特徴) 精神看護方法論Ⅱ (看護の実際) 精神看護学実習 総合実習						
専	助教	尾崎 八代	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 地域看護方法論Ⅰ (地域看護基本技術) 地域看護方法論Ⅱ (地域看護活動論) 地域看護方法論Ⅲ (産業看護活動論・健康 危機看護管理論) 地域看護方法論Ⅳ (地域看護基本技術演習) 地域看護学実習 総合実習						
専	助教	岩藤 のり子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 在宅看護方法論 在宅看護論実習 総合実習						
兼任	講師	上岡 千世	平成21年4月	臨床心理学 ※ 成人・老年看護方法論Ⅴ (ターミナルケア) ※ 家族看護論 ※						
兼任	講師	山本 映子	平成21年4月	精神看護学概論						
兼任	講師	小野寺 房子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	戸村 道子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	稲岡 光子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	河野 美香	平成21年4月	女性学						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名	就 任 予 定 年 月	担 当 授 業 科 目 名	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職 名	氏 名 (年 齢)	就 任 予 定 年 月	担 当 授 業 科 目 名	
兼任	講師	白神 暉	平成21年4月	疾病論（総論） ※ 疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血管系）						
兼任	講師	佐藤 香代	平成21年4月	疾病論Ⅱ （消化・腎・泌尿器系） 疾病論Ⅲ （内分泌・代謝・生殖器系） ※						
兼任	講師	中山 孝善	平成21年4月	疾病論Ⅲ （内分泌・代謝・生殖器系） ※						
兼任	講師	中田 雅敏	平成21年4月	疾病論（総論） ※ 疾病論Ⅳ （脳・神経・運動器系）						
兼任	講師	長江 哲夫	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	大村 和正	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	金村 章	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	一宮 斉子	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	西條 良香	平成21年4月	周産期医学						

共通

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年 月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年 月	担当授業科目名	
兼担	教授	真鍋 俊照	平成21年4月	日本の歴史と思想 (含東洋) 四国いやしの道						
兼担	教授	大原 剛	平成21年4月	教養国語 総合ゼミ						
兼担	教授	近藤 碩二	平成21年4月	言語と文化						
兼担	教授	竹原 弘	平成21年4月	人間論(含大学論) 西洋の歴史と思想 西洋の政治思想史 生命と倫理 ※ ヨーロッパ研究 総合ゼミ						
兼担	教授	田中 省造	平成21年4月	教養国語 四国いやしの道 総合ゼミ						
兼担	教授	田中 敏生	平成21年4月	教養国語						
兼担	教授	谷口 伸光	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	教授	友重 幸四郎	平成21年4月	教養国語						
兼担	教授	亀石 二三	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	教授	阿部 曜子	平成21年4月	教養英語Ⅱ 生命と倫理 ※						
兼担	教授	岡本 俊彦	平成21年4月	教養英語Ⅳ						
兼担	教授	忠津 光治	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年 月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年 月	担当授業科目名	
兼担	教授	田中 孝雄	平成21年4月	教養英語Ⅱ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						
兼担	教授	長尾 輝彦	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅳ						
兼担	教授	古田 八恵	平成21年4月	教養英語Ⅱ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						
兼担	教授	横畠 康吉	平成21年4月	アメリカ研究 災害と防災の知識 総合ゼミ						
兼担	教授	小松 君代	平成21年4月	現代社会と人間 総合ゼミ						
兼担	教授	萩原 八郎	平成21年4月	国際関係・国際理解 アメリカ研究 総合ゼミ						
兼担	教授	蔵本 暢浩	平成21年4月	水の科学						
兼担	教授	羽賀 敏雄	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	教授	近藤 真紀	平成21年4月	栄養学						
兼担	教授	原田 寛子	平成21年4月	健康科学概論 ※ 生命と倫理 ※ 総合ゼミ						
兼担	教授	安好 敏子	平成21年4月	カウンセリング入門						
兼担	教授	大谷 八峯	平成21年4月	総合ゼミ						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年 月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年 月	担当授業科目名	
兼任	教授	秋山 敬子	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	教授	鈴木 敏昭	平成21年4月	社会集団と人間心理 総合ゼミ 人間発達学						
兼任	准教授	辻 尚子	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	森上 洋光	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	喜多 三佳	平成21年4月	中国の法思想 総合ゼミ						
兼任	准教授	村井 礼	平成21年4月	現代社会と知的財産法						
兼任	准教授	中岡 泰子	平成21年4月	総合ゼミ 人間関係論						
兼任	准教授	坂口 久美子	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	板東 絹恵	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	小野 健司	平成21年4月	総合ゼミ 近代日本の教育						
兼任	講師	谷口 薫	平成21年4月	教養英語IV フランス語 I フランス語 II						
兼任	講師	Mark Graham Fennelly	平成21年4月	国際関係・国際理解 NPO・ボランティア活動論						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名	就任予定 年 月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年 月	担当授業科目名	
兼任	講師	大久保 正信	平成21年4月	情報処理						
兼任	講師	関口 寛	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	講師	武市 泰彦	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	助教	佐伯 雅宣	平成21年4月	中国語 I 中国語 II						
兼任	助教	永井 真也	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	助教	范 永輝	平成21年4月	健康スポーツ						
兼任	教授	竹内 庵	平成21年4月	世界の中の日本経済						
兼任	教授	西尾 幸郎	平成21年4月	環境と人間						
兼任	教授	西堀 尚良	平成21年4月	自然科学の進歩						
兼任	教授	日開野 博	平成21年4月	NPO・ボランティア活動論						
兼任	教授	木村 彰	平成21年4月	環境と人間 社会参加の人間学						
兼任	准教授	宇山 裕士	平成21年4月	キャリア開発						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	岡田 和子	平成21年4月	教養英語 I						
兼任	准教授	小笠 泰史	平成21年4月	徳島の研究 総合ゼミ						
兼任	准教授	田村 伸代	平成21年4月	教養国語 総合ゼミ						
兼任	准教授	津村 健司	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	内藤 正義	平成21年4月	教養英語 I 教養英語 III 教養英語 IV						
兼任	准教授	吉田 一彦	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	秋山 賢治	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	准教授	秋山 賢治 (74) (高)	平成21年4月	総合ゼミ	平成21年3月 一身上の都合により辞退。 総合ゼミは39名の担当者での実施なので支障はない。(21)
兼任	准教授	浦上 純二	平成21年4月	徳島の研究 物理学基礎	兼任	准教授	武知 公雄 (60)	平成21年4月	徳島の研究	平成21年3月 一身上の都合による辞退のため担当者を変更(21)
					兼任	准教授	後任未定 浦上 純二 (66) (高)	平成21年4月	物理学基礎	平成21年3月 一身上の都合による辞退のため未開講(21)
兼任	准教授	白石 基章	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	赤尾 敏之	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	大平 憲一郎	平成21年4月	人間論(含大学論)	兼任	准教授	浅香 寿徳 (68) (高)	平成21年4月	人間論(含大学論)	平成20年11月 一身上の都合による辞退のため担当者を変更(21)
				生命と倫理 ※	兼任	准教授	浅香 寿徳 (68) (高)	平成21年4月	生命と倫理 ※	平成20年11月 一身上の都合による辞退のため担当者を変更(21)
				総合ゼミ	兼任	准教授	大平 憲一郎 (65) (高)	平成21年4月	総合ゼミ	平成20年11月 一身上の都合により辞退。 総合ゼミは39名の担当者での実施なので支障はない。(21)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年 月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年 月	担当授業科目名	
兼任	准教授	加集 隆司	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	佐藤 昌宏	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	浅香 寿徳	平成21年4月	総合ゼミ					総合ゼミ	
									人間論 (含大学論)	平成21年4月より大平憲一郎辞退のため担当科目を追加(21)
									生命と倫理 ※	平成21年4月より大平憲一郎辞退のため担当科目を追加(21)
兼任	准教授	池田 昌和	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	八島 哲夫	平成21年4月	徳島の研究 社会参加の人間学						
兼任	准教授	廣瀬 秀史	平成21年4月	数学基礎 統計学基礎						
兼任	准教授	富加見恒治	平成21年4月	生物学基礎						
兼任	准教授	村井 尚志	平成21年4月	人間論 (含大学論) 化学基礎 総合ゼミ						
兼任	准教授	大平 孝子	平成21年4月	生命と倫理 ※ 総合ゼミ						
兼任	講師	Luxton, Robeert S	平成21年4月	国際関係・国際理解 教養英語IV						
兼任	講師	大和 武生	平成21年4月	人権思想と歴史						
兼任	講師	宮崎 信也	平成21年4月	四国いやしの道						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年 月	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年 月	担当授業科目名	
兼任	講師	石川 栄作	平成21年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ						
兼任	講師	平井 松午	平成21年4月	地域と文化						
兼任	講師	中村 豊	平成21年4月	考古学						
兼任	講師	濱 高公	平成21年4月	日本国憲法						
兼任	講師	掛井 秀一	平成21年4月	情報処理	兼任	講師	橋爪 正樹 (52)	平成21年4月	情報処理	平成21年4月より掛井秀一の本務校との関係で担当者を変更(21)
兼任	講師	藤田 雅文	平成21年4月	健康スポーツ						
兼任	講師	都築 顕雄	平成21年4月	保健福祉行政論						

(2)専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
13	6	4	7	30	9	0	0	0	0	0	0	
()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	

6 留意事項に対する履行状況等

区分	留意事項	履行状況	未履行事項についての実施計画																							
<p>認可時 (20年10月)</p>	<p>(留意事項)</p> <p>1 看護師、保健師のほかに助産師、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(看護)の資格を取得可能としているが、設置の趣旨・目的に沿った看護教育の質の低下をまねかないようにすること。</p> <p>2 看護師及び保健師以外の資格取得については、卒業要件でないことを募集要項及び履修指導において明確に説明すること。特に、編入学生に対しては、多様な資格取得の困難性を募集要項等において予め理解させることができるようにしておくこと。</p> <p>3 文学部日本文学科の入学定員超過の是正に努めること。</p>	<p>入学後のオリエンテーションにおいて卒業要件である看護師・保健師の統合カリキュラムの履修モデルおよび助産師、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(看護)取得希望者用の履修モデルを提示し、卒業や国家試験受験資格取得に必要な科目・単位について理解させるとともに、安易な資格取得に奔ることなく教育理念に即した科目履修に努力することを留意させた。また、卒業要件以外の資格・免許取得に関しては、人数制限を設け適切な時期に希望学生の中から、意欲・履修能力・成績等を勘案し選抜することとする。</p> <p>看護学科パンフレット、入試ガイドに看護師・保健師国家試験受験資格の卒業要件に加え、選択履修することで助産師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状(看護)が取得可能という旨を明記し募集活動を行った。また、履修要項、オリエンテーション資料にも詳述し、入学後行ったオリエンテーションにおいて学生に周知した。</p> <p>入学者数管理をより綿密に行うことで平成21年度入試では、入学定員超過率が1.00倍となった。また、修業年限相当期間における入学定員超過率の平均も1.21倍となっている(表1参照)。今後とも留意事項の遵守に鋭意努力したい。</p> <p>表1 四国大学文学部日本文学科入学状況</p> <table border="1" data-bbox="699 1413 1099 1787"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18年度</th> <th>H19年度</th> <th>H20年度</th> <th>H21年度</th> <th>平均入学定員超過率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 入学定員</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td rowspan="2">1.21倍</td> </tr> <tr> <td>B 入学定員</td> <td>61人</td> <td>55人</td> <td>58人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>入学定員比 B/A</td> <td>1.35倍</td> <td>1.22倍</td> <td>1.28倍</td> <td>1.00倍</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平均入学定員超過率	A 入学定員	45人	45人	45人	45人	1.21倍	B 入学定員	61人	55人	58人	45人	入学定員比 B/A	1.35倍	1.22倍	1.28倍	1.00倍		<p>編入学生に対しては、平成23年度の「編入学試験要項」に詳細を明記し募集を行うこととする。</p>
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平均入学定員超過率																					
A 入学定員	45人	45人	45人	45人	1.21倍																					
B 入学定員	61人	55人	58人	45人																						
入学定員比 B/A	1.35倍	1.22倍	1.28倍	1.00倍																						

	<p>(その他意見)</p> <p>1 臨地実習の同意書には、安全確保及び個人情報保護に関する内容を明記すること。</p> <p>2 実習施設側の個人情報保護・事故防止の方針に従うことを明確にすること。</p> <p>3 上記資格取得に関連して、編入学生に対して補講を前提とすることは教育上望ましくないので、正規の時間割の中に位置づけるように配慮すること。</p>	<p>「看護学実習に係る個人情報の保護に関する取り扱い」「臨地実習における受持ち患者承諾書」「看護学実習における安全管理」を覚書に添付し、臨地実習先へ提出する。現在、実習開始に向け担当者が実習施設を訪問し、実習計画を協議している。その際に上記の内容についても説明を加えている。</p> <p>『臨地実習に関する覚書』に「指示及び服務の内容」「守秘義務」の項目を設け実習施設と協定を結んだ。また、各看護学実習に共通する注意事項等を編集して作成した『実習要項共通編』に上記の内容を盛り込み、「看護学実習概論」や実習前のオリエンテーション等で学生に繰り返し指導を行う。</p> <p>編入学生の履修モデルを短期大学、看護専門学校との3年課程ならびに2年課程の3パターンで作成した。なお、入学者個々人の既修得単位の状況が異なるため、各人に適した履修指導を入学前から個別に行う。</p>	
設置計画履行状況調査時 (○年○月)			
設置計画履行状況調査時 (○年○月)			

- (注) 1 「認可時」欄には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度（丸数字）を付記してください。
- 2 「設置計画履行状況調査時」欄には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- 3 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- 4 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	特に、変更はありません。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>※関係規程等を転載又は添付すること</p> <p>教員の資質の維持向上については、毎年度、理事会より示される具体的な指針を受けて各教員が努力しているところであるが、全学的には学長を委員長とするFD委員会が中心となり各種の取組を推進している。また、当該学部においては、学部FD委員会、研究交流推進委員会を置き、附属看護学研究所とも連携を図りながら取組の充実を図ることとしている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） （資料1, 2）</p> <p>(1) FD委員会は、学長、代表学部長(2名)、各学部教授等(2名)、教務部長、共通教養教育運営委員長、事務局(2名)の計17名で構成され、ほぼ全員が参加し、毎月1回開催されている。</p> <p>(2) 学部FD委員会は4名の委員を置き、代表2名が全学FD委員会に出席している。毎月1回開催。</p> <p>(3) 研究交流推進委員会は委員4名を置き、研究の推進と看護学研究所との連携の役割を担う。毎月1回開催。</p> <p>(4) 附属看護学研究所は、学部開設に先立ち、平成19年度から設置されており、現在、看護学部教員全員が所属している。学術調査研究の推進が主たる目的であるが、その活動を通して教員の資質能力の向上に寄与することとなる。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(1) FD委員会の審議事項は、委員会規則第2条に規定されており、その内容は以下の通りである。 <input type="checkbox"/> 授業改善のための研修会 <input type="checkbox"/> 学生による授業評価の実施 <input type="checkbox"/> 新任教員研修会 <input type="checkbox"/> 教育問題懇話会 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>(2) 学部FD委員会の役割としては、「教員が能力・資質向上のために行う活動を、学部教授会や教務委員会、各領域長と連携しながら整備・支援し、かつ、企画・運営・評価を行う」ことで学部内の合意がはかられており、以下のような活動に取り組む。 <input type="checkbox"/> 教員の研究会や研修会の開催、運営 <input type="checkbox"/> 全学、他学部のFDとの連携 <input type="checkbox"/> 専任教員、助手のFD支援</p> <p>(3) 研究交流推進委員会は、看護学部内の研究活動と附属看護学研究所と連動した取組について審議し、その推進に当たる。</p> <p>(4) 附属看護学研究所は、研究所規則第3条に定められた次の事項について事業を行い、教育研究の質の向上、教員の資質・能力の向上に資するものとする。 <input type="checkbox"/> 看護学及び関連各領域に関する学術調査・研究、情報・資料の収集・整備・保管並びに活用 <input type="checkbox"/> 研究会、講演会の開催 <input type="checkbox"/> 研究・調査報告、機関誌その他刊行物の発行 <input type="checkbox"/> 学外から委託された調査・研究の実施並びに研修・指導等への協力 <input type="checkbox"/> 学内外の教育研究機関との連携 <input type="checkbox"/> その他全各号に掲げる以外の必要な事業</p>
--

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

現在、全学FD委員会を中心に次のような取組が進められている。看護学部もこれらの取組に参画するとともに学部の実情に即した学部独自のFD活動も積極的に取り組んでいく。

○授業改善のための研修会

- ・授業の実践報告会
- ・模擬授業等の実施

○授業公開

○学生による授業評価の実施

○教育問題懇話会

○「FDメールマガジン」の発行

○「教育実践報告書」の刊行

○文部科学省・戦略的大学連携支援事業の活用

b 実施方法

○授業改善のための研修会

年間2回実施している「教育問題懇話会」の1プログラムとして実施。

○授業公開

6月に1週間、学内、学外に授業を公開。県内のすべての高等学校、県外の関係高等学校にも案内。

平成21年度は6月に1週間内部公開。11月末の1日を外部公開の予定。

○学生による授業評価の実施

ウェブ上で実施し学内公開。原則として全学部全学科のすべての科目で実施。

○教育問題懇話会

各種教育課題についての問題提起、研究協議。年間2回実施。

○「FDメールマガジン」の発行

学内ポータルシステムで全教職員に配信。毎月1回発行。FDに資する各種情報を提供。

○「教育実践報告書」の刊行

年間のFD活動のまとめ及び各教員の授業実践報告。

○文部科学省・戦略的大学連携支援事業の活用

愛媛大学を中心とする「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』による大学の教育力向上」プログラムに参画し、プログラムを推進することによりFD活動の推進・充実を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

FD委員会主催の研修会には、全教職員に参加を呼びかけている。公務の都合等で欠席もあり（欠席の場合は欠席理由が必要）、参加は全教職員の6～7割程度となっているが、毎回、有意義な研修の機会となっている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

毎月1回開催されるFD委員会においては、各種取組の計画立案、実施結果の分析、改善案の検討等がなされており、必要な事柄は「FDメールマガジン」や「教育実践報告書」で全教職員に伝え、教育内容、教育方法の改善に活用してもらっている。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

本学は平成18年度に財団法人大学基準協会の認証評価を受け、大学基準に適合していると認定された。評価結果については、CD・ROMの形で関係機関や関係学校等に配布するとともに大学のホームページで公表した。大学として、次は、平成25年度に評価機関の評価を受けることになる。

看護学部では、学部内委員会として評価委員会(4名)を置き、全学組織である自己点検評価企画運営委員会との連携を図りながら、中期目標、中期計画に即した年度内計画に対する学部内の評価の企画、実施、点検、改善等の活動の円滑な推進に努めることとする。

a 公表(予定)時期

・平成26年5月1日 公表(予定)

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書(冊子、CD・ROM)を作成し、学内外に公表する。
- ・大学ホームページ上にも公開する。

③ 認証評価を受ける計画

・平成25年度に評価機関(未定)の評価を受ける。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成21年 3月 19日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www2.shikoku-u.ac.jp/kango/>)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成21年 6月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www2.shikoku-u.ac.jp/kango/>)

- (注) 1 項目は、1～6の項目により記入した事項以外で、認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- 2 記入事項は、原則として、設置認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
- 3 「(3) 自己点検・評価等に関する事項」については、認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、積極的な評価を行う場合、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
記入方法は、欄内には(別紙のとおり)とし、A4版1枚程度で作成した別紙を添付してください。
なお、「B 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- 4 「(4) 情報提供に関する事項」の「①」及び「②」の「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、現在は未公表であり、今後公表を予定している場合は、公表後の取扱いについて記入してください。

(別紙) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学看護学部は、急激な社会の変化、特に、保健医療福祉を取り巻く著しい環境の変化の中で、「人間性豊かな生活の実現」を中心的命題として推進してきた本学の教育研究の発展として、また、地域に根ざし地域とともにある本学の使命として、地域における看護専門職者育成の必要性に応えるために設置されたものである。

従って看護学部においては、本学の建学の精神「全人的自立」に沿って人間形成を図るとともに、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を確実に身につけ、能動的学習者として生涯学び続け、地域の保健医療福祉に貢献できる実践力を備えた自立的人材、すなわち、「やさしくて賢い」看護専門職者を育成することを目的としている。

教育課程編成は、こうした人材育成の目的を実現するために効果的なものとなるよう、「共通教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」を段階的系統的に編成した。特に「共通教養科目」は、本学では建学の精神である「全人的自立」具現化の方途として重視し、全学共通の規程として30単位の履修を求めている。

こうした設置の趣旨・目的等については、設置認可後の就任予定教員連絡協議会、また開設後の教員オリエンテーションにおいて説明し、教員組織の共通理解を図った。また、人材育成の目的は「アドミッションポリシー」に反映させているが、「入試ガイド」や「入学試験要項」に明記し、それを踏まえた入学者選抜を計画通り実施した。

入学者選抜は、推薦入試、一般入試、AO入試、社会人入試の4種を実施した。入試全体の志願者数は165名で、受験者数160名。129名を合格とし、入学者は85名であった。入学定員超過率は1.06倍で、設置初年度の入試であったが全体として適正で望ましい入試運営ができた。平成22年度入試からは、大学入試センター試験利用入試を加え、5種の入学者選抜を実施する。

看護学部教員組織については、専任教員がすべて予定通り就任して期待していた学部の体制が整い、学内組織としての諸活動や教育課程の運営も順調にスタートさせることができた。

入学生に対しては、入学式後、5日間のオリエンテーションを計画的に実施し、看護学部の教育理念や目的、教育課程編成、学習方法等についてガイダンスを実施した。特に、履修指導は、教務課員と看護学部教務委員、指導教員（チューター）による指導体制を組んで実施し、履修要項、シラバスを用意するとともに履修モデルを提示することにより、学生が自ら学習計画を立て、主体的、目的的に学習に取り組めるよう支援した。

また、本学看護学部では、看護師・保健師の国家試験受験資格とともに、必要な科目を選択履修することにより、助産師の国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高校教諭一種免許状（看護）の取得が可能となっているが、後三者については卒業要件となっておらず、単位修得のためには相当な努力がいることや人数制限があることを改めて説明し、安易な資格取得に奔ることなく、学部本来の科目履修に努力するよう指導した。

臨地実習での安全確保、個人情報保護、事故防止についても看護学実習事務室が中心となり、実習先と文書を交わし相互の対応について明確にしたり、授業科目やオリエンテーションで学生への指導の徹底を図るなどの取組を進めている。

今後とも、設置計画を着実に履行するとともに教育研究の一層の充実を図り、所期の目的を達成すべく努力を続けたい。